新約聖書 ルカによる福音書 6 章 27 節―38 節（新共同訳）

27「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言っておく。敵を愛し、
あなたがたを憎む者に親切にしなさい。28悪口を言う者に祝福を祈り、あなた
がたを侮辱する者のために祈りなさい。29あなたの頬を打つ者には、もう一方
の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。30
求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そ
うとしてはならない。31人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。
32自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあろう
か。罪人でも、愛してくれる人を愛している。33また、自分によくしてくれる
人に善いことをしたところで、どんな恵みがあろうか。罪人でも同じことをし
ている。34返してもらうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあろ
うか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。35
しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしない
で貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。
いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。36あなた
がたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」
37「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だ
と決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦し
なさい。そうすれば、あなたがたも赦される。38与えなさい。そうすれば、あ
なたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよく
して、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返される
からである。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「敵を愛す」

人間の心の中には、光と闇の両方が内在しています。天使のような自分を感じる時もあれば、憎しみや恨みに取りつかれた怪物のような自分を感じる時もあるのではないでしょうか。

ニーチェはこう述べています。「怪物と闘うときは、自らも怪物とならぬよう、気をつけなさい。深淵を覗きこむときは、深淵からもあなたは覗かれている」。

「やられたらやり返す」「復讐する」などの行いには、自らが怪物となってしまう側面があります。復讐は復讐を呼び、だんだんとエスカレートしていくものです。憎しみの連鎖、復讐の連鎖は、どこかで断ち切られなければなりません。そうでなければ、とどまることなく、破壊と破滅に向かう道を進むことになります。

本日の福音書には、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」から始まるイエスの教えが記されています（ルカ 6:27）。イエスは、無償の愛をもって行動することと、憎しみや復讐の連鎖を断ち切っていくことの大切さを私たちに語ります。

それは、互いにやり返したり、仕返しをしたり、自分を苦しめた相手のやり方を自分自身で行ってはならないという戒めです。

さらにイエスは人々に言います。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」（ルカ 6:31）。これは、「黄金律」としてよく知られている言葉です。黄金律とは、内容が深遠で、人生にとってこの上なく本質的な教訓ということです。

イエスはこの黄金律について、さらに深く語っていきます。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」とは、互いに愛し合うことやギブ・アンド・テイクとは全く違う、ということです（ルカ 6:31）。なぜなら、自分を愛してくれる人を愛するだけなら、罪人でもしているからです。イエスがここで言う「罪人」とは、「神から離れた人」を示しているのでしょう（ルカ 6:32）。神から離れている罪人でも、自分を愛してくれる人を愛することはします。

人間同士が互いに愛し合うことは、神の目から見ればスケールが小さく、その相互愛を私たちが超えていくことを神は促します。自分を愛してくれる人だけを愛し、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、天からの恵みはないとイエスは語ります。

イエスがここで述べていることは、人間にとってなかなか難しいことです。特に「あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい」や「上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない」などは、並外れた聖人にならない限り、不可能と言えることでしょう（ルカ 6:29）。

「並外れた聖人」と言いましたが、フランスの修道女リジューのテレーズは、聖人に「上・中・下」のようなものはないことを、このように述べています。

「あなたにとって、／生半可な聖人になることは不可能です。／聖人になるか、聖人にならないかのどちらかです」。（『リジューのテレーズ 365 の言葉』114 ページ）

これは凄い言葉だと思います。「私は聖人です」と言い切れる人は、ほぼいないでしょう。しかしそれでも、「完全な聖人」になることは、人間にとって不可能なことではないのだと思います。自分は聖人とはほど遠いと思っていた人が、ある瞬間、たとえそれがそのひとときだけであっても「完全な聖人」になっているということが、あるのではないでしょうか。

またイエスは、「人を裁くな」「人を罪人だと決めるな」という戒めに続いて、「赦しなさい」「与えなさい」という積極的な行為を促す教えを語ります（ルカ 6:37-38）。

「赦しなさい」「与えなさい」とは、神の慈悲深さと一体となって、私たち人間が慈悲深い者となることへの促しです。神が憐れみ深いように、私たちも憐れみ深い者になることをイエスは求めます。

そして、そのあとに「そうすれば、あなたがたも赦される」「そうすれば、あなたがたにも与えられる」と続き、この教えを聞く者を神の愛に連れ戻します（ルカ 6:37-38）。神は、あふれるほどのものを私たちに与えてくださるのです。

与えられることについてのたとえである「押し入れ、揺すり入れ、あふれるほ

どに量りをよくして、ふところに入れてもらえる」とは、穀物を売買する時のイメージです。枡で量るときに、穀物にせよ何にせよ固形物の場合は、入れてからゆすると粒と粒の間がびっしりと詰まってきて、もっと多く入るようになります。

ゆえにこのたとえは、神が、基準をはるかに超えた、あり余るほどの恵みを私たちに与えてくださることを表しているのです。

イエス・キリストに従い、無償の愛で隣人を愛そうとすることは、神の恵みの世界に生きるための尊い大きな試みです。

イエスは「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」と言いました（ルカ 6:31）。「人からしてもらいたくないことは、人にもするな」というよりも、前向きで行動的な表現です。

自分が人からしてもらいたいと思うこととは何でしょうか。それに思いを巡らせてみることも、自分自身の心の内側を見つめる機会になると思います。

あなたが人からしてもらいたいと思うことは、何ですか。独立心が旺盛な人、遠慮深い性格の人などは「人からしてもらいたいことなど何もない」と思うこともあるかもしれません。

しかしそれでも、心の奥の奥の方には「自分が人からしてもらいたいこと」があるのだと思います。そこに焦点を当ててみてください。

私たちは、「自分が人からしてもらいたいこと」を自らの心の内で認識しておくことによって、人に対してもより多くのものを与えることができるのではないでしょうか。

自分が「人から与えられる」ことに心を開いておくことによって、人に対してもより多くの愛を与えることができるのだと思います。

隣人に対して、どんな時も無償の愛を持つことは、私たち人間にとって簡単なことではないでしょう。それでも、神から与えられた無償の愛の存在が、自らの内側にあることをいつも忘れずに、私たちは、試みの時も、喜びの時も、共に歩んで行きましょう。

お祈りをします。
天の父なる神様。私たちが心の内に抱えているものを、あなたはご存じです。私たちがあなたの光に照らされて自らの内を見つめ、隣人に愛をもって関わっていくことができますように。救い主 イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

＊＊＊＊＊＊ 説教ここまで ＊＊＊＊＊＊

以下、本日に関連する聖書箇所（第 1 朗読と第 2 朗読）です。

旧約聖書 創世記 45 章 3 節―15 節（新共同訳）
[3] ヨセフは、兄弟たちに言った。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができな

かった。[4]ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか、もっと近寄ってください。」
兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。「わたしはあなたたちがエ
ジプトへ売った弟のヨセフです。[5]しかし、今は、わたしをここへ売ったこと
を悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわ
たしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。[6]この二年の間、世界中
に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もな
いでしょう。[7]神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この
国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる
救いに至らせるためです。[8]わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではな
く、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治
める者としてくださったのです。[9]急いで父上のもとへ帰って、伝えてくださ
い。『息子のヨセフがこう言っています。神が、わたしを全エジプトの主とし
てくださいました。ためらわずに、わたしのところへおいでください。[10]そし
て、ゴシェンの地域に住んでください。そうすればあなたも、息子も孫も、羊
や牛の群れも、そのほかすべてのものも、わたしの近くで暮らすことができま
す。[11]そこでのお世話は、わたしがお引き受けいたします。まだ五年間は飢饉
が続くのですから、父上も家族も、そのほかすべてのものも、困ることのない
ようになさらなければいけません。』[12]さあ、お兄さんたちも、弟のベニヤミン
も、自分の目で見てください。ほかならぬわたしがあなたたちに言っているの
です。[13]エジプトでわたしが受けているすべての栄誉と、あなたたちが見たす
べてのことを父上に話してください。そして、急いで父上をここへ連れて来て
ください。」[14]ヨセフは、弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンもヨセ
フの首を抱いて泣いた。[15]ヨセフは兄弟たち皆に口づけし、彼らを抱いて泣い
た。その後、兄弟たちはヨセフと語り合った。

新約聖書 コリントの信徒への手紙 一 15 章 35 節―50 節（新共同訳）

[35]しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者
がいるかもしれません。[36]愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命
を得ないではありませんか。[37]あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、
麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。[38]神は、御心のままに、それに体
を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。[39]どの肉も同じ肉だ
というわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違い
ます。[40]また、天上の体と地上の体があります。しかし、天上の体の輝きと地
上の体の輝きとは異なっています。[41]太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあっ
て、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。[42]死者の
復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復
活し、[43]蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれると
きには弱いものでも、力強いものに復活するのです。[44]つまり、自然の命の体
が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊
の体もあるわけです。[45]「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書い
てありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。[46]最初に霊の体
があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるので
す。[47]最初の人は土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者で
す。[48]土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属す
る者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。[49]わたしたちは、土か
らできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもな
るのです。[50]兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け
継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。

教会讃美歌　190 番「主のみ名によりて」、131 番「聖なる聖なる」、250 番「つくられしものよ」、199 番「主よいま去りゆく」